

事業所名

こまつな菊ちゃんハウス

事業概要

農業

—ビニールハウスにおける小松菜の周年栽培、梨の栽培、その他の野菜の露地栽培—



とやま障害者フレンドリー企業

障害者の雇用状況

従業員数: 19人

雇用障害者数 身体1人(うち重度0人)・知的2人(うち重度0人)・精神2人

障害者が従事する業務

身体障害者: 梨の栽培管理 1人

知的障害者: 小松菜の袋詰め、収穫作業補佐等 2人

精神障害者: 小松菜の播種前準備作業及び播種(機械作業) 1人
小松菜の袋詰め等 1人

障害者雇用のきっかけや目的(雇用に対する考え方)等

◆障害者就業・生活支援センターより障害者の職場実習を受け入れたことがきっかけであった。最初は実習だけのつもりだったが、ここでの仕事に十分間に合っていたため採用へと結びついた。それ以来何人も障害者を雇用しているが、十分な戦力になっている。

◆障害者だからといって特別扱いせず、1人1人を尊重し、その人の個性に応じて、できる仕事を責任を持って行ってもらうこととし、ナチュラルサポートを心がけている。



ハウス内の小松菜の圃場の整地作業



収穫した小松菜の袋詰め作業

障害者雇用で工夫されている取組みなど

◆採用時

- ・福祉施設の施設外就労や支援学校等からの実習の受入を行っている。
必ず職場実習を通じて採用し、本人の適性を見極めながら業務に就いてもらう。
- ・採用時に家族の方とも面談をし、職場と本人について、理解し合う。また、何か問題があった場合は、家族と連絡を取り合う。

◆作業内容等

- ・本人の体調や体力等を考慮しながら、休日や勤務時間を設定する。(週30時間勤務が基本)
- ・最初は、やり方の手本を実際に見せて、仕事を覚えてもらう。慣れるのに時間はかかるが、一つの業務に慣れてくれば、別の業務も経験してもらい、できる仕事の内容を増やしていく。
ただし、決して無理はさせず、一定の仕事を任せるようにしている。
- ・1人で任せられる作業を増やしていくと、外部の栽培技術の講習会に率先して参加するなど、仕事への取組みが意欲的になり、達成感・責任感を持って働くようになる。
- ・同じ作業ができる人を2人以上配置している。ある作業をできる人が1人しかいなかった場合、その人が体調を崩して休んでしまうと予定通りに進まなくなることもあるので、代わりにできる人が必ずいる状態にしている。

◆職場環境等

- ・以前はハウス内で小松菜の袋詰め作業を行っていたが、暑さで体調を崩す人もいたため、袋詰め作業を屋内でできるように選果場を設置し、袋詰め用の機械も導入した。
- ・小松菜の収穫や袋詰めを一緒に行う女性従業員等が、常時障害者を温かく見守っており、トラブルがあれば指導役へ直ちに連絡が入る体制となっている。

会社(社長)の声など

- ・持っている障害により留意することはあるが、普段の仕事の中で障害の有無を意識することはほとんどない。農業分野であり体を動かす仕事であることも良い作用となっていると考えている。
- ・仕事を覚えてもらうまでには、多少の我慢と時間は必要だが、慣れれば自分自身で努力し、十分戦力になってくれる。
- ・季節によって仕事量に波があるため、年間を通じた仕事を生み出すことが課題である。
- ・今後も障害者の雇用は継続していきたい。同時に、より良い職場環境を整えつつ、ここで働く人たち全員が自分の仕事にやりがいをもって働いてもらえるような職場を目指し続けたい。

